

# 在宅介護実態調査の集計結果

～第10期介護保険事業計画の策定に向けて～

令和8年7月

根室市健康福祉部介護保険課

# 在宅介護実態調査の概要

## 1. アンケート調査の目的

本調査は、要介護者の在宅生活の継続や介護者の就労継続に有効な介護サービスのあり方を検討し、第10期介護保険事業計画の策定のための基礎資料とするため実施したものです。

## 2. 調査の対象者及び実施期間

|       |                                    |
|-------|------------------------------------|
| 調査対象者 | 介護認定の更新申請及び区分変更申請の対象者で、在宅介護を受けている者 |
| 調査方法  | 認定調査員による聞き取り                       |
| 実施期間  | 令和7年11月14日～令和8年6月30日               |
| 回答者数  | 200名                               |

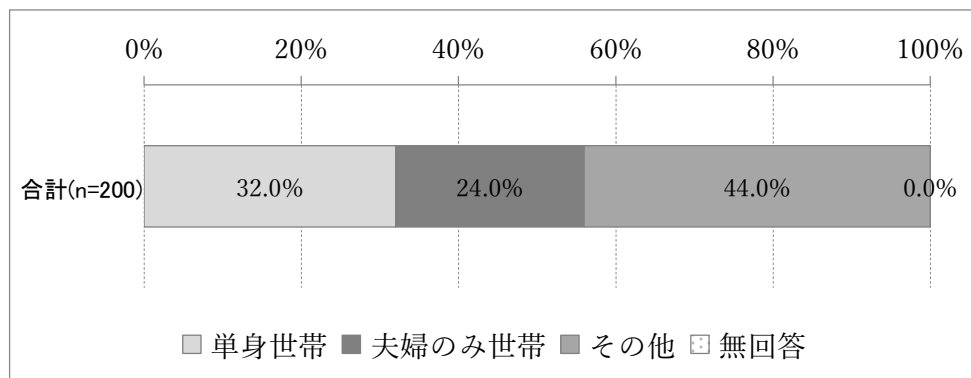
※ 医療機関に入院している方、介護施設等に入所又は入居している方は調査の対象となっておりません。

### 3. 集計結果

#### (1) 基本調査項目

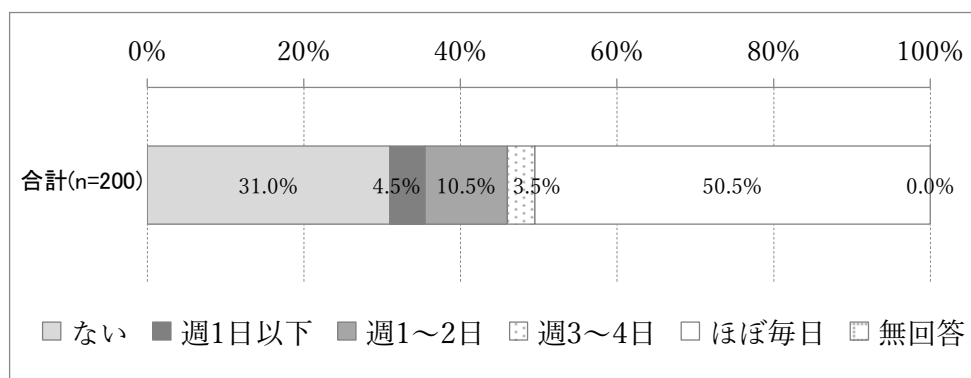
##### ① 世帯類型

世帯類型について、「単身世帯」が32.0%、「夫婦のみ世帯」が24.0%、「その他」が44.0%となっています。



##### ② 家族等による介護の頻度

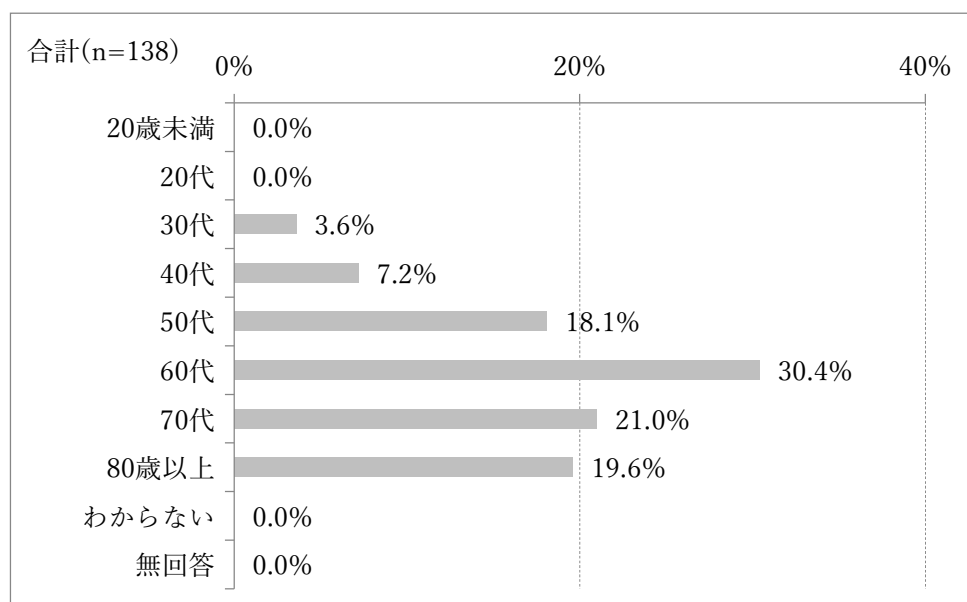
家族等による介護の頻度は、「ほぼ毎日」が50.5%、次いで、「ない」が31.0%、「週1～2日」が10.5%、「週1日以下」が4.5%、「週3～4日」が3.5%となっています。



#### (2) 主な介護者の調査項目

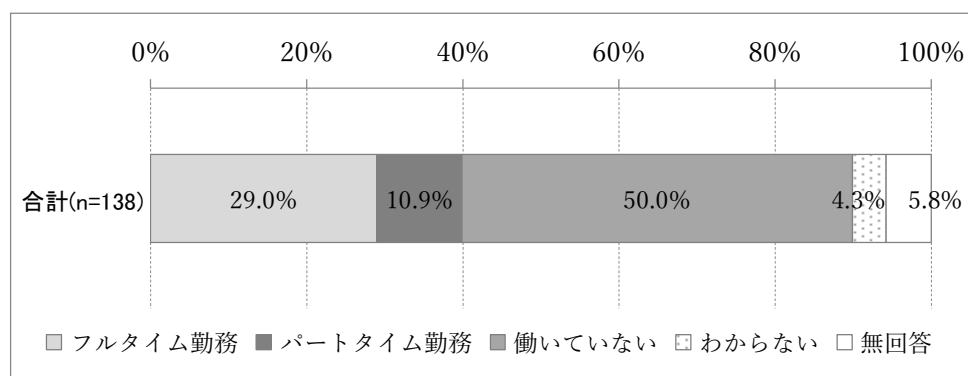
### ① 主な介護者の年齢

主な介護者の年齢は、「60代」が30.4%と最も高く、次いで、「70代」が21.0%、「80歳以上」が19.6%、「50代」が18.1%と50代以上の割合が高くなっている。



### ② 主な介護者の勤務形態

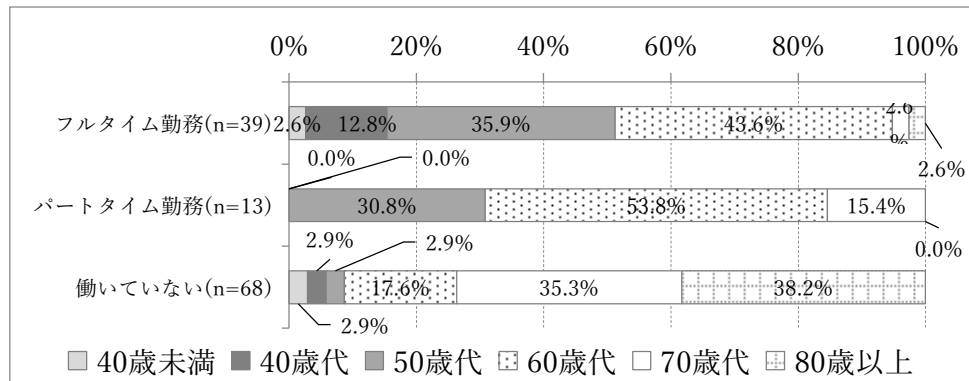
主な介護者の勤務形態は、「働いていない」が50.0%、「フルタイム勤務」29.0%、「パートタイム勤務」が10.9%、「わからない」が4.3%となっています。



### ③ 就労状況別・主な介護者の年齢

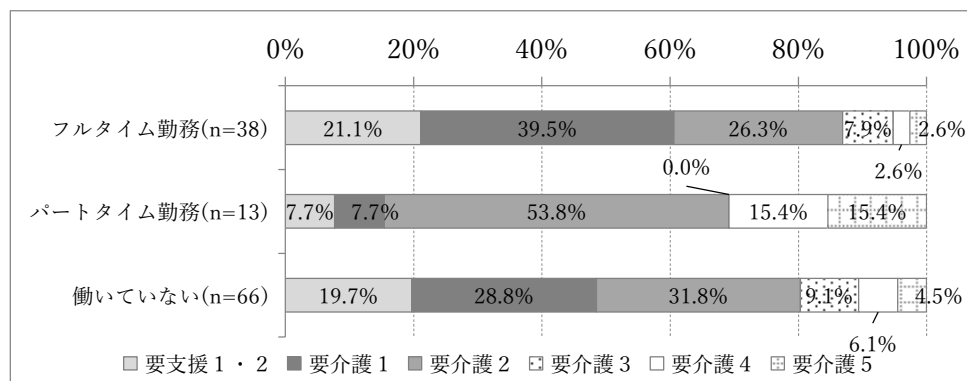
就労状況別における主な介護者の年齢は、フルタイム勤務では「60歳代」43.6%、

次いで「50 歳代」が 35.9%となっており、パートタイム勤務では「60 歳代」が 53.8%、次いで「50 歳代」が 30.8%、「70 歳代」が 15.4%となっており、働いていないでは「80 歳以上」が 38.2%、次いで「70 歳代」が 35.3%となっています。



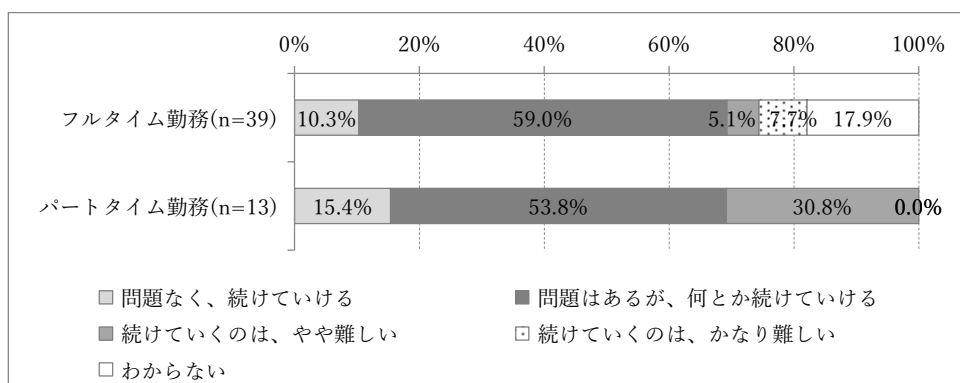
#### ④ 就労状況別における要介護度

就労状況別における要介護度は、フルタイム勤務では「要介護1」が 39.5%、次いで「要介護2」が 26.3%となっており、パートタイム勤務では「要介護2」53.8%、次いで「要介護4」、「要介護5」が 15.4%となっており、働いていないでは「要介護2」が 31.8%、次いで「要介護1」が 28.8%となっています。



#### ⑤ 就労状況別における就労継続見込み

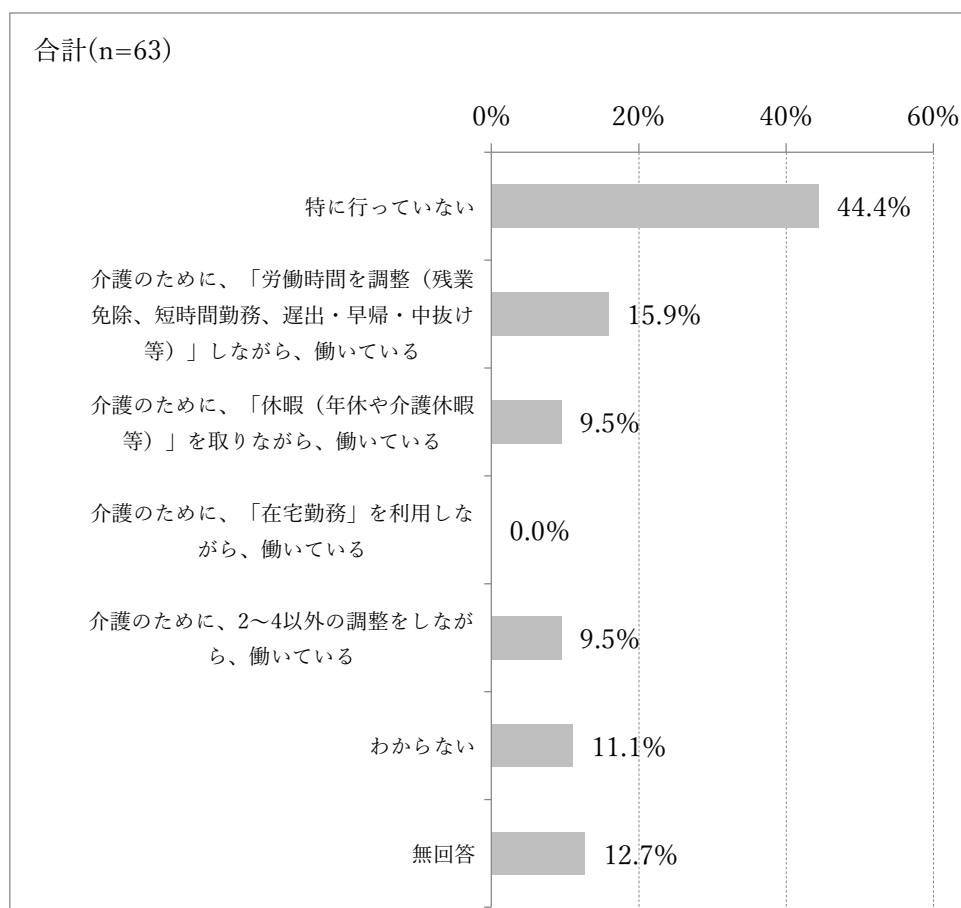
就労状況別における就労継続見込みは、フルタイム勤務では「問題はあるが、何とか続けていける」が59.0%、次いで「わからない」が17.9%、「問題なく、続けていける」が10.3%、「続けていくのは、かなり難しい」が7.7%、「続けていくのは、やや難しい」が5.1%となっており、パートタイム勤務では「問題はあるが、何とか続けていける」が53.8%、次いで「続けていくのは、やや難しい」が30.8%、「問題なく、続けていける」が15.4%、となっています。



## ⑥ 主な介護者の方の働き方の調整（複数回答）

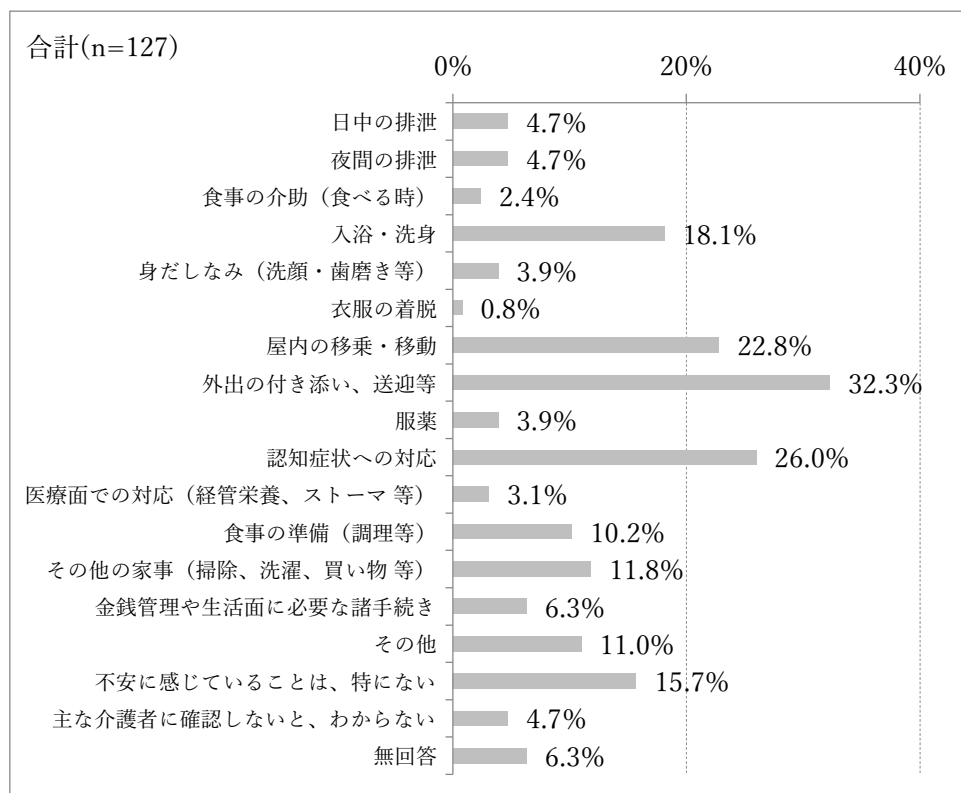
主な介護者の方の働き方の調整は、「特に行っていない」が44.4%、次いで、「介護のた

めに、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が15.9%、「無回答」が12.7%、「わからない」が11.1%、「介護のために、休暇を取りながら、働いている」、「介護のために、2～4以外の調整をしながら働いている」が9.5%となっています。



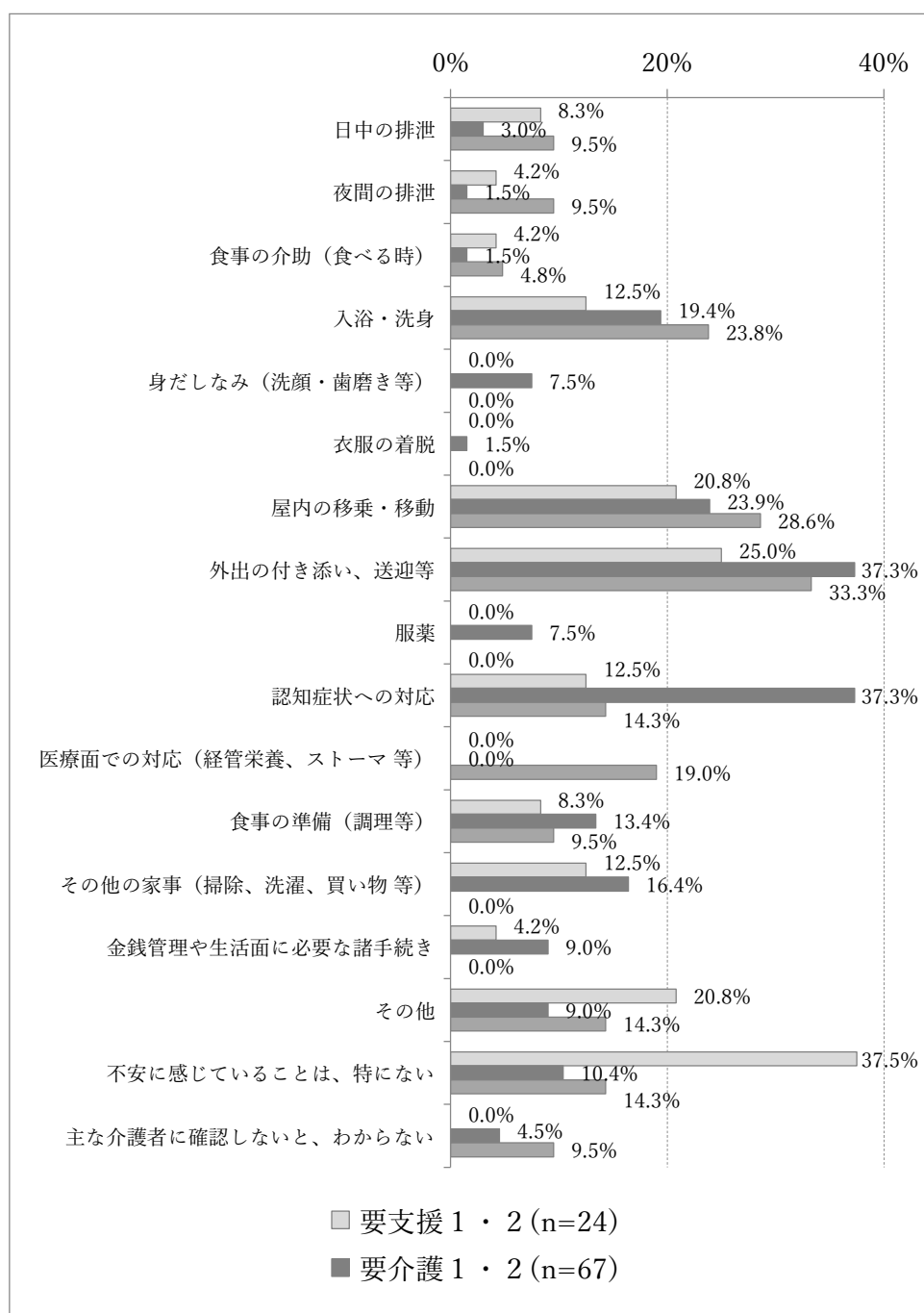
⑦ 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護（複数回答）

主な介護者が不安に感じる介護は、「外出の付き添い、送迎等」が32.3%、次いで、「認知症状への対応」が26.0%、「屋内の移乗・移動」が22.8%、「入浴・洗身」が18.1%、「不安に感じていることは、特にない」が15.7%、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物）」が11.8%となっています。



# ⑧ 要介護度別・介護者が不安に感じる介護（複数回答）

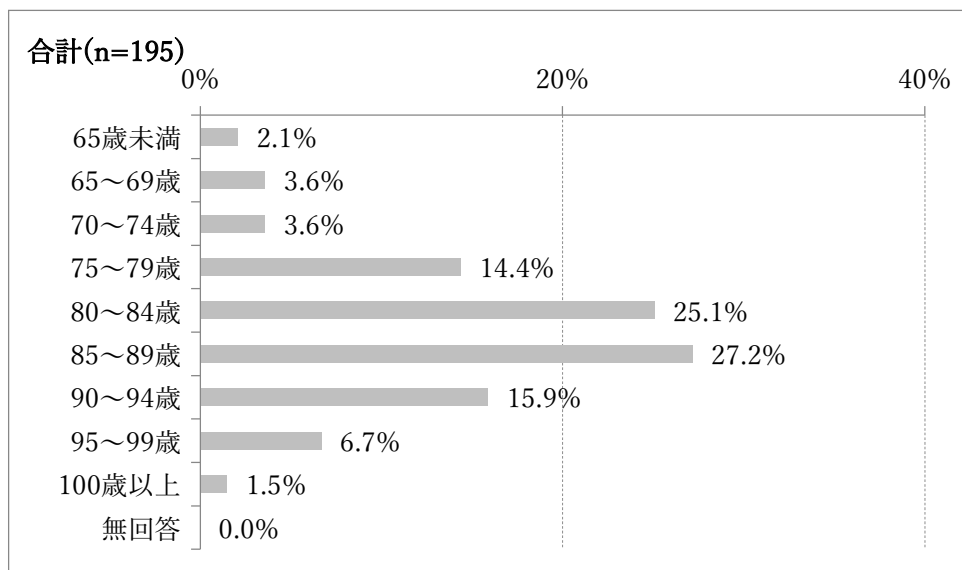
要介護度別・介護者が不安に感じる介護は、要支援１・２では「不安に感じていることは、特にない」が３７.５％、次いで「外出の付き添い、送迎等」が２５.０％、「屋内の移乗・移動」、「その他」が２０.８％となっており、「要介護１・２」では「外出の付き添い、送迎等」、「認知症状への対応」が３７.３％、次いで「屋内の移乗・移動」が２３.９％、「入浴・洗身」が１９.４％となっており、「要介護３以上」では「外出の付き添い、送迎等」が３３.３％、次いで「屋内の移乗・移動」が２８.６％、「入浴・洗身」が２３.８％となっています。



### (3) 要介護認定データ

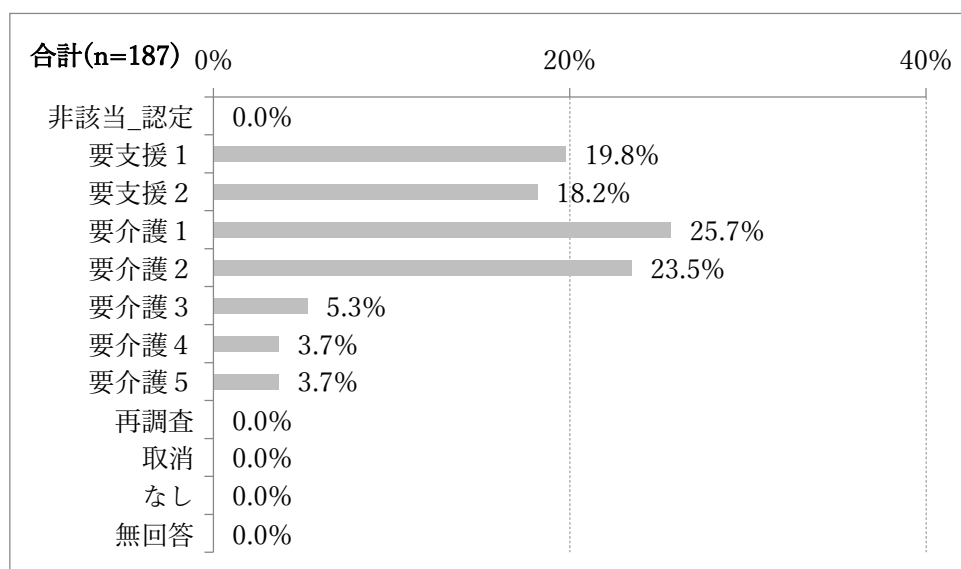
#### ① 介護を受けられている方の年齢

介護を受けられている方の年齢は、「85～89 歳」が 27.2%、次いで、「80～84 歳」が 25.1%、「90～94 歳」が 15.9%、「75～79 歳」が 14.4%、「95～99 歳」が 6.7%となっています。



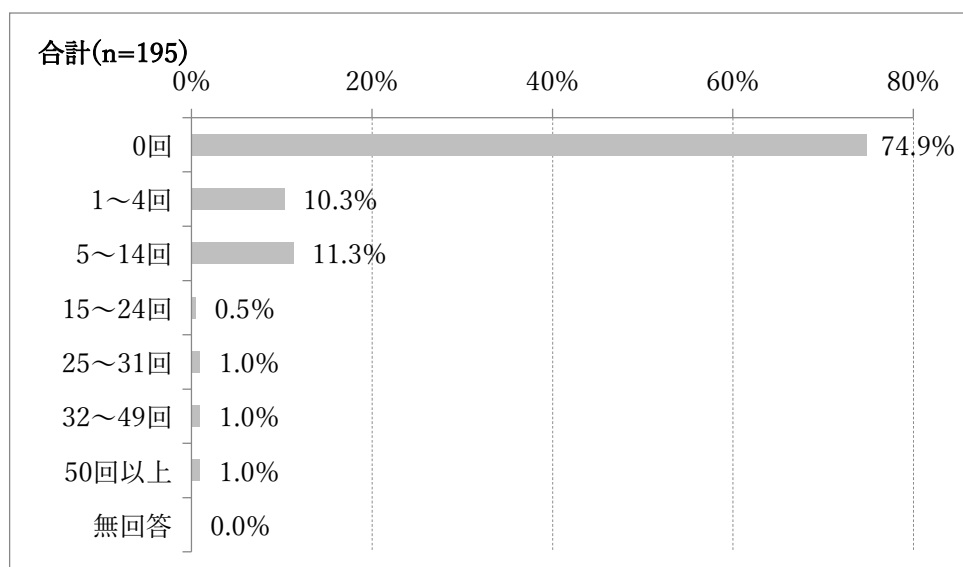
## ② 二次判定結果

二次判定結果は、「要介護1」が25.7%、次いで、「要介護2」が23.5%、「要支援」が19.8%、「要支援2」が18.2%、「要介護3」が5.3%、「要介護4」、「要介護5」が3.7%となっています。



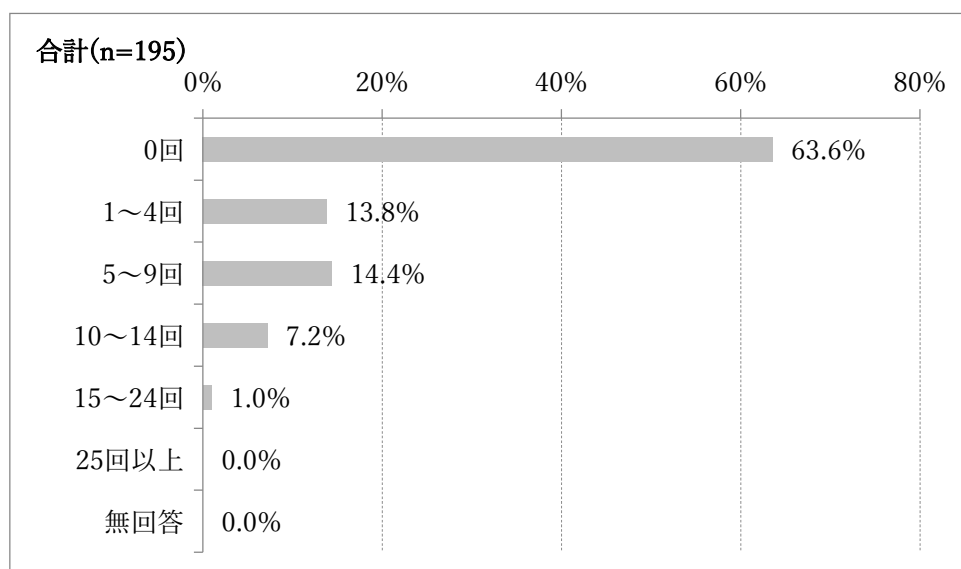
## ③ 訪問系サービスの利用回数

訪問系サービスの利用回数は、「0回」が74.9%、次いで、「5～14回」が11.3%、「1～4回」が10.3%、「25～31回」、「32～49回」、「50回以上」が1.0%、「15～24回」が0.5%となっています。



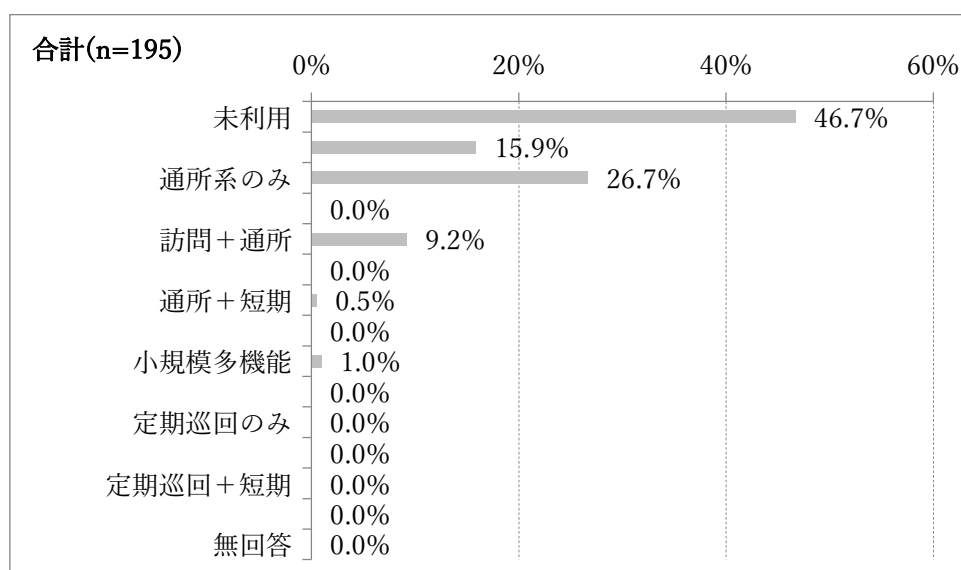
#### ④ 通所系サービスの利用回数

通所系サービスの利用回数は、「0回」が63.6%、次いで、「5～9回」が14.4%、「1～4回」が13.8%、「10～14回」が7.2%、「15～24回」が1.0%となっています。



#### ⑤ サービス利用の組み合わせ

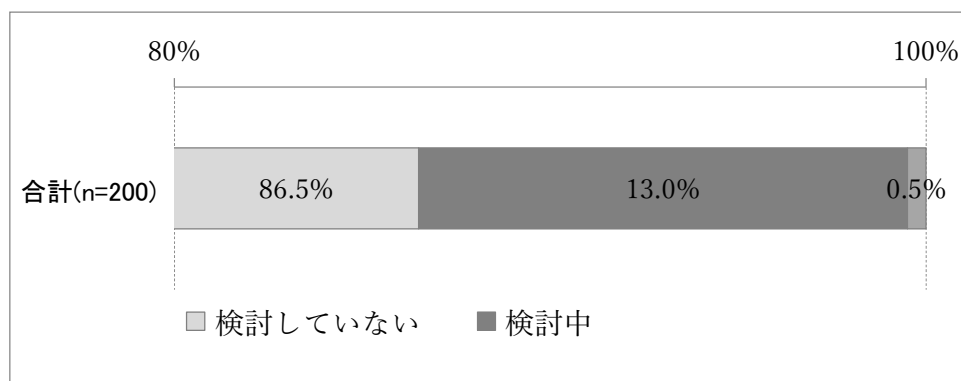
サービス利用の組み合わせは、「未利用」が46.7%、次いで、「通所系のみ」が26.7%、「訪問系のみ」が15.9%、「訪問+通所」が9.2%、「小規模多機能」が1.0%、「通所+短期」が0.5%となっています。



#### (4) 主な介護者及び調査対象者の調査項目

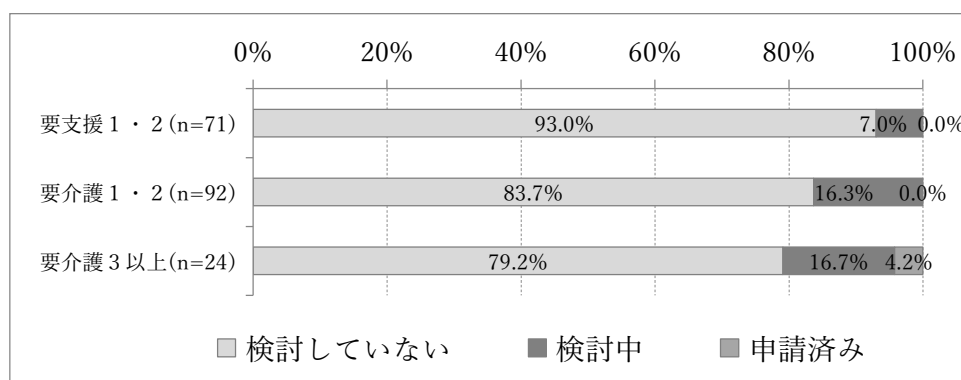
##### ① 施設等検討の状況

施設等検討の状況は、「検討していない」が86.5%、次いで、「検討中」が13.0%、「申請済み」が0.5%となっています。



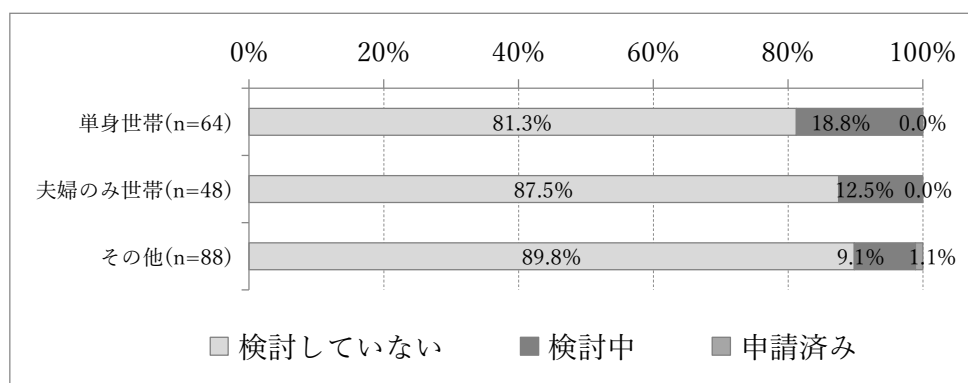
##### ② 要介護度別・施設等検討の状況

要介護度別・施設等検討の状況は、要支援1・2では「検討していない」が93.0%、次いで「検討中」が7.0%となっています。要介護1・2では「検討していない」が83.7%、次いで「検討中」が16.3%となっています。「要介護3以上」では「検討していない」が79.2%、次いで「検討中」が16.7%、「申請済み」が4.2%となっています。



### ③ 世帯類型別・施設等検討の状況

世帯類型別・施設等の状況は、単身世帯では「検討していない」が81.3%、次いで「検討中」が18.8%となっています。夫婦のみ世帯では「検討していない」が87.5%、次いで「検討中」が12.5%となっています。その他では「検討していない」が89.8%、次いで「検討中」が9.1%、「申請済み」が1.1%となっています。



## 集計結果から見える課題

### 課題の整理

今回の「在宅介護実態調査」は、「第10期介護保険事業計画」の策定にあたり、これまでの「地域包括ケアシステムの構築」という観点に加え、「介護離職をなくしていくためにはどのようなサービスが必要か」といった観点を盛り込むため、「高齢者等の適切な在宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続」の実現に向けた介護サービスの在り方を検討するために実施したものです。上述した観点を基に、集計結果を分析することで、以下のような課題がみえてきました。

### 課題 根室市における在宅介護の実態

今回調査した方のうち、50.5%が家族等からの介護を「ほぼ毎日」受けていました。年齢を見ると、「30代」から「60代」の合計が、全体の59.3%に及びました。このことから生産年齢人口（15歳以上65歳未満）であるにもかかわらず、主な介護者となることを理由に介護離職する可能性のある方が多数存在すると考えられます。実際に就労しながら介護をしている方の49.2%が「問題はあるが、何とか続けていける」、9.5%が「続けていくのは、やや難しい」、4.8%が「続けていくのは、かなり難しい」と回答しています。

また、主な介護者の年齢が「70代」及び「80歳以上」の合計は40.6%となっています。このことから、要介護者が家族や親族からの介護を受けていたとしても、その実態が「老老介護」や「認認介護」であるという問題も推測されます。

### 課題 就労している主な介護者への支援

就労している主な介護者の働き方の調整を分析したところ、25.4%の方が「介護のために、労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）しながら、働いている」、「介護のために休暇や在宅勤務以外の調整をしながら、働いている」と回答しています。

こうした方々の介護負担を軽減するためにも、職場において介護と勤務の両立のための制度の普及が必要であると考えられます。

## 課題 主な介護者が抱える不安

主な介護者が不安に感じる介護については「外出の付き添い、送迎等」が32.3%次いで「認定症状への対応」が26.0%、「屋内の移乗・移動」が22.8%、「入浴、洗身」が18.1%と介護者の年齢が上がってくると、在宅介護を続けられない状況も出てくると推測されます。